

## 答辞

やわらかな陽の光が降り注ぎ、春の訪れを感じられる季節となりました。本日は、先生方、職員の方々をはじめ、保護者の皆様多くの皆様のご臨席のもと、このような盛大な卒業式を催していただいたことに、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

三年前の春、少し大きい、真新しい制服に身を包み、期待と不安を胸に、明星高校に入学しました。いま思い返してみると、明星高校での三年間は本当にあっという間でした。そして、その長いようで短かった三年間は、他の何ものにも代えがたい青春でした。特に、入学してすぐのオリエンテーション合宿は思い出深いものです。まだクラスメイトと完全に打ち解けていない中で、行事は、正直不安でした。けれど、様々な活動の中で、共に助け合い、課題をクリアし、絆を深めました。眠れない夜に、正確には、眠りたくなかった夜に、仲良くなった友人と、くだらない話で笑い合った記憶が、昨日のこのように思い出されます。私は、これから始まる高校生活に、胸を膨らませていました。

ところが、その期待も虚しく、高校一年生の三学期、新型コロナウイルスが、日本でも猛威をふるい始め、その影響により、高校生活も大きく制約を受けました。しかしそんな苦境の中だからこそ、友人との久しぶりの再会に喜びを感じたり、人と関わることの大切さに気付かされたりしました。二年次の明星祭は中止となりましたが、それに代わる文化発表会があり、私は生徒会副会長として運営に携わりました。生徒会の意向に沿う形で、一人も感染者を出すことなく完遂できたのは、活動の制限がある中で、一致団結して練習、本番に臨み、それを周囲の人間がサポートし支えあう、といった連携体制があったからです。

また、コロナ禍での学校行事や受験を通して獲得した経験や、築き上げた人間関係、個人の人間性など、私たちが得た全てのこととは、逆境の中で自ら課題を見出し、立ち向かい、そして懸命に生き抜いた、その証であると思います。

そして、人との関わりという面において、陰で支えてくださった方々の存在無くして、今日という日を迎えることはできませんでした。

学校行事の一つをとっても、何事もなく無事に終えることができたのは、入念な準備をしてくださった先生方のお力添えがあったからです。コロナ禍においては、生徒の安全に配慮し、異例の授業形式にも柔軟に対応してくださいました。また、多忙な中で生徒に寄り添い、厳しくも愛のあるご指導をしてくださいました。先生方の揺るぎない教えと、数えきれぬほどの温かいお言葉を励みにし、この先、どんなに大きな壁にぶち当たったとしても、挑戦し続けることを、ここに約束します。三年間、本当にありがとうございました。

また、共に笑い、共に成長し、共に困難に立ち向かってきた戦友たち。時には価値観の違いから、傷つけたり、傷つけられたりすることもありました。それでも、根底にはいつも、人を思いやる心、人を大切にする心、そして情に満ちた優しい心がありました。その優しさに触れることで、豊かな感受性と、人間性を育むことができました。共に過ごした三年間は、かけがえのない財産です。高校生活の思い出は、この先一生忘れません。本当に、ありがとうございます。

そして何より、寛大な心と、深い愛情で接してくれたお父さん、お母さん。この十八年間の中で、何度も迷惑をかけ、その度に、辛い思いをさせてしまいました。うるさく言うのは、心配しているから。厳しくするのは、正しい道を歩んで欲しいから。頭ではわかっていても、つい反抗してしまうこともありました。それでも、いつでも変わらず、たくさん愛情を注いでくれました。そのおかげで私たちは、無事に今日という日を迎えることができました。本当に、ありがとうございます。これからは、少しずつではありますが、自立した大人になるために、日々精進していきます。いつか大きな恩返しをするその時まで、どうか一番近くで見守っていてください。

私は、この高校生活を一文字で表すとすれば、人、であると思います。私たちはこれまで、様々な経験をしてきました。そのいかなる場面においても、人との関わりがありました。人間は、一人では生きていけません。これから、たくさんの人との出逢いと別れがあります。その一期一会を大切にし、豊かな人間性を育むと共に、自ら道を成し、これから先の人生を、精一杯生きて行くことを誓います。

最後になりましたが、これまで支えてくださった全ての方々に改めて御礼申し上げますとともに、明星高校のますますのご発展を心よりお祈りし、答辞といたします。

令和四年三月一日

卒業生総代

山岡 道成